

奥銀谷地域 まちづくり計画

目 次

- I. 奥銀谷地域まちづくり計画の役割 . . . 2
- II. 地域の現状と課題 . . . 3 ~ 4
- III. 地域の将来像と目標 . . . 5 ~ 6
- IV 目標実現に向けた具体的施策 . . . 7 ~ 11

I. 奥銀谷地域まちづくり計画の役割

奥銀谷地域自治協議会は、奥銀谷地域の持つ問題・課題を解決し、住みよい地域社会実現のため平成20年5月24日に設立されました。

地域自治協議会は朝来市自治基本条例第15条第1項に基づく組織であり、同条第2項において、「地域まちづくり計画」の策定が義務付けられています。

奥銀谷地域まちづくり計画は、地域住民自らがあるべき地域の将来像を描き、住みよいまちづくりを実現していくための目標を定めたものです。概ね10年を計画期間とし、時代の変化により5年後に見直しを行い、常に時代の変化に即した計画にしていけます。また、具体的には、毎年の事業計画や予算に反映し、計画の実現に向けて取り組んでいきます。



II. 地域の現状と課題

(地域の概要)

奥銀谷地域は、朝来市生野町の北東部に位置し、黒川を源流とした市川が地域内を流れ、播磨平野の水瓶である県営生野ダムと、揚水発電としては日本最大級を誇る関西電力奥多々良木発電所の上部ダムである黒川ダムの2つを抱える兵庫の水源地です。地域を大きく分けると、市川の源流域に位置する農山村地域と、生野鉱山を支えた従業員が多く暮らした市街地に分かれます。

源流域には美しい溪谷美と特別天然記念物であるオオサンショウウオが数多く生息する豊かな自然環境が、市街地には鉱山の歴史を伝える史跡生野銀山があり、年間を通して多くの観光客が訪れています。

また、竹原野地区には、特別養護老人ホームのほかケアハウスやグループホームなどが整備され、福祉ゾーンが形成されています。

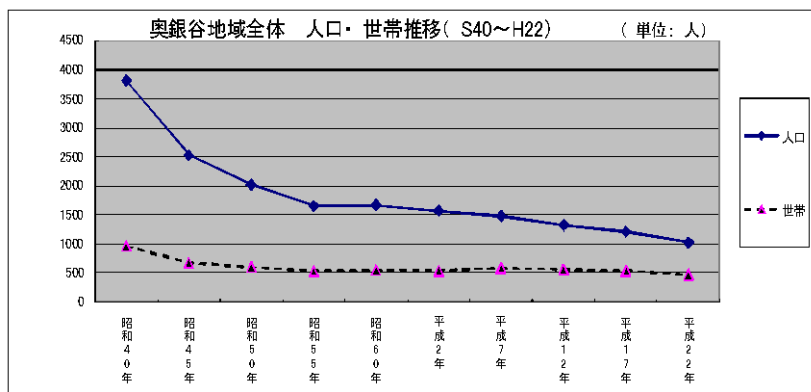
人口の大部分は市街地に集中していますが、鉱山の閉山以後は急速な人口減少に見舞われ、市街地には空家が多く点在するようになり、空洞化が進んでいます。近年は、空家が老朽化してきており次々と取り壊され、空地も目立つようになってきました。

さらに、平成21年3月には児童数の減少により、奥銀谷小学校と奥銀谷幼児センターが閉校・閉園、生野小学校及び生野こども園と統合になり、昼間には地域から子どもの声が聞こえなくなってきました。

(人口の増減及び高齢化の状況)

鉱山最盛期の昭和40年4月には、人口4,101人、世帯数は1,033戸を数え、行政区も10地区が存在していましたが、昭和48年の生野鉱山の閉山による人口流失と、県営生野ダムの建設による集団移転で2行政区がなくなり、現在は8行政区、人口1,016人、460世帯（平成23年3月31日住民基本台帳）と、最盛期に比べ人口は4分の1、世帯数は半分以下になっています。

高齢化率は42%で、独居老人比率は14%と市全体（高齢化率29%、独居老人比率5%）と比べても非常に高く、市内でも最も過疎高齢化が進んだ地域となっています。また、8行政区の内3行政区は高齢化が50%を超える限界集落となっており、これらの地域には、小学生以下の子どもがいないという現象が起きています。



(奥銀谷地域のまちづくり状況)

奥銀谷地域では、大護摩焚きや生野昔踊り（盆踊り）、秋祭りなどの伝統行事や芸能文化の継承に取り組んでいるほか、生野銀山へいくろう祭りや新町河川公園祭りなど、地域住民による自主的なイベントが数多く開催されています。黒川地区においては、都市との交流やオオサンショウウオが住む水辺環境をテーマとした、子どもの夏休み体験合宿キッズラボやエコツアーなどの取り組みも行われています。

自治活動は、8行政区の自治会により、それぞれ運営が行われており、子ども会、老人会なども、それぞれの自治会に組織されていますが、近年は、会員数の減少により単独での活動が困難になってきています。また、地域内には、シルバー生野や特別養護老人ホームいくの喜楽苑、黒川温泉などの事業所のほか、NPO法人日本ハンザキ研究所などといった団体が活動をしています。

奥銀谷地域自治協議会は、このような中で奥銀谷小学校区内の自治会や活動団体、事業所、行政委員などが集まり、平成20年5月に設立され、『かながせの郷』（旧奥銀谷幼児センター）を拠点に活動を展開しています。拠点施設には、「ふれあい喫茶だんらん」をオープンし、新たな地域住民の拠り所として、子どもから年寄りまでが気軽に集える地域住民のふれあいの場を提供しています。

(地域の課題)

- ◎ 昭和48年の生野鉾山閉山以降、奥銀谷地域は大きく衰退してきています。特に人口の減少は顕著で、多くの住民が地域外に流出、高齢者世帯の割合が増加しています。加えて子供の数は年々減少してきており、人口減少に拍車をかけています。
- ◎ 地域住民のシンボルであり、拠り所であった奥銀谷小学校と幼児センターの閉校・閉園により、昼間は地域から子どもの姿が消え、学校でつながっていたコミュニティがなくなってきました。
- ◎ 奥銀谷地域は63km²と面積が広いうえ、奥地の集落は中心部から25kmと離れ、その間には民家もなく、地理的に一体的なコミュニティの形成が図りにくい条件にあります。さらに、これらの集落は特に高齢化が進んでおり、今まで集落内で完結していた祭りやイベント、共同作業などが、集落内だけでは出来なくなってきました。
- ◎ 現在、奥銀谷地域には路線バスが日に9本（平日）運行されていますが、黒川地域は土日祝日の2本の路線バスと平日週2日のデマンドバス、猪野々・白口地域に至っては平日週2回のデマンドバス運行となっているのが現状です。また、生活必需品を扱う店も地域には2軒しかなく、高齢化が進み、車が運転出来ない世帯が増えてくるなかで、将来を考えた場合、住み続けることへの不安が大きくなってきています。
- ◎ 豊かな自然環境や史跡生野銀山を訪れる観光客は多いものの、通過型の観光であるため、地元住民との関わりが薄く、地元への波及効果は表れていません。せっかくの豊かな自然環境や歴史資源が十分に生かされていない現状にあります。

Ⅲ. 地域の将来像と目標

奥銀谷地域のまちづくりを未来へ継承し、課題を解決するため、まちづくりの基本方針（キャッチフレーズ）を

「みんなが主役 いきいき元気 奥銀谷」

とし、以下の通り目標を定め、まちづくりに取り組んでいきます。

(1) 後世につなぐふるさとづくり

奥銀谷地域には、最盛期の鉱山を支えた従業員社宅、坑道（間歩）、トロッコ道などの鉱山遺産をはじめ、町並み、神社仏閣、昔踊り、方言などの鉱山町の歴史文化が色濃く残っています。また、オオサンショウウオが数多く生息する清流環境や銀山湖、白口溪谷の紅葉、金香瀬のヒカゲツツジなど、豊かで美しい自然が多く残っています。

このような、歴史文化資源や自然環境を求め、毎年、生野銀山、銀山湖、黒川温泉、白口溪谷などには多くの観光客が訪れています。

一方で、生活環境が多様化、高度化するなかで、ごみ問題や地球温暖化の問題は、日々の生活にも大きく影響してきています。

失われつつある文化や歴史を掘り起こしながら地域の宝を再発見し、先人たちが守り育ててきた文化や美しい自然環境を守り、将来の地域を担う子供たちが自慢できるよう、しっかりと奥銀谷地域の未来につないでいきます。

(2) だれもが安心して暮らせる地域づくり

奥銀谷地域は朝来市内でももっとも少子高齢化が進んでいる地域です。雪かきや溝掃除など、個人ですべき社会活動が困難になりつつあるとともに、交通弱者、買い物難民の増加も課題となっています。

このようなときこそ近所づきあいや隣保のつながりなど、身近なコミュニティでの助け合いを通じ、子供が安全に遊べ、お年寄りが安心して暮らせる社会を地域全体で作りが望まれます。

奥銀谷地域の資源・風土・マンパワーを生かし、地域全体でお年寄りや子供達を支え、ともに助け合い、安心して暮らせる地域社会を実現していきます。

(3) にぎわいの地域づくり

奥銀谷地域には年間多くの観光客が訪れています。また、全国には多くの奥銀谷出身者がおられ、今も奥銀谷地域に愛着をもたれています。このような方々が奥銀谷地域に住みたくなる、帰ってきたくなる、そして今住んでいる人がずっとここに住もうと思える地域でありつづけること、また、住みたい人がすぐ住める環境にあることが望まれます。

また、奥銀谷地域の地域住民が自慢できるふるさと産品があり、その生産・

加工によって雇用や経済効果を生み出していること、奥銀谷地域内の身近な場所に働く場があり、安心して地域社会で生活できる環境も望めます。

奥銀谷地域固有の、誇るべき資源（歴史・自然・人）の魅力を高め、最大限に活かし、交流人の増加から恒常的なリピーター増加、定住や地域経済活性化につなげ、持続可能な奥銀谷地域を実現していきます。

(4) 笑顔がふれあう地域づくり

奥銀谷地域では、かながせの郷やふれあい喫茶「だんらん」での交流や学びの場が生まれ、世代を越えた生涯学習の輪がひろがりつつあります。生野昔おどりの復活や生野夏物語の運営など、地区の枠を超えた伝統芸能・行事の保全活動も活発化しています。一方で、ウォーキングやハイキングなど、健やかな生活を維持していく上で気軽に楽しめる健康づくり活動が盛んになりつつあります。

このような活動を将来に繋げていくためには、人と人とのつながりを大切にする地域づくり、地域に誇りをもち、自信をもって社会参加できる人づくり、気軽に健康づくりが出来る環境整備が不可欠です。

生涯学習や健康づくりなど、老若男女を問わずすべての住民が、自ら学び、自らを高め、健やかに生活していける機会を地域で創出するための取り組みを行います。

(5) みんなが主役の地域づくり

昭和 48 年の生野鋤山閉山以降、奥銀谷地域はさまざまな分野で衰退してきています。しかし一方で、将来に対する危機感と、「自分達のことは自分達で」の気概のもと、住民主体のまちづくりも活発化してきています。

奥銀谷地域自治協議会は、住民の、住民による、住民のための組織です。住民の皆さんがこれからもまちづくりに参画しやすい環境を整え、奥銀谷地域の未来を住民みんなが主役となって作り上げていく取り組みを行います。

IV 目標実現に向けた具体的施策

1. 後世につなぐふるさとづくり

(1) 伝統行事や歴史文化の保存

奥銀谷地域に残されている昔踊りや、竹原野の獅子舞、黒川の田植え歌をはじめとした地域の伝統文化や言い伝えなどを映像や文書により保存するとともに、継承するために人材育成支援を行っていきます。

また、郷土愛を育むため、それらを活用した講座やPR活動に努めていきます。

(ア) 昔おどり・盆踊り、民謡、言い伝えの保存・育成

(イ) 歴史の語り継ぎや歴史講座の開催

(ウ) 地域を学び地域を愛する人づくり



(2) うるおいの景観づくり

鉱山遺跡や歴史的町並みなど、奥銀谷地域にある独特の鉱山文化景観を見直し、それらを活用したまちづくりイベントや保存啓発に努めていきます。

また、美しい景観づくりのため地域に花いっぱいのまちづくり活動を展開していきます。

(ア) 奥銀谷の町並みを活かした七夕まつり・ひなまつり

(イ) 鉱山町の町並み保存やPR

(ウ) 花いっぱいの地域づくり



(3) 環境美化

清潔な居住空間を共有するために、クリーン作戦や集団回収など、地域ぐるみの環境美化活動に努めます。また、オオサンショウウオが住む市川源流域の清流保全のため、清掃活動や啓発活動などを行っていきます。

(ア) 集団回収の実施

(イ) 市川の清流の保全



2. だれもが安心して暮らせる地域づくり

(1) みんなで支える地域づくり

だれもが年をとっても安心して暮らせる地域実現のため、買い物支援やミニデイサービスなど高齢者支援のネットワーク化、講習会の開催などさまざまな世代で支えあいながら豊かに暮らしていくための具体的な取り組みを行っていきます。

- (ア) 高齢者等への安心生活支援（買い物・安否確認支援）
- (イ) 高齢者支援のネットワーク化や共同実施
- (ウ) 認知症や介護についての講習会の実施
- (エ) AEDの設置や救命救急講習会の実施



(2) みんなが顔見知りの地域づくり

子供やお年寄りの安全・安心な暮らしを実現するために、住民自らが地域を見守る環境づくりなどの取り組みを行っていきます。

- (ア) 青パト巡回
- (イ) 一人暮らしの高齢者などへの声かけや見守り
- (ウ) 交通立ち番（子供の見守り）



(3) 安心して過ごせる地域づくり

災害など、いざというときに地域全体で円滑に安全を確保するために必要な組織作りや勉強会のほか、防災マップや避難所標識の整備など環境づくりも行っています。

- (ア) 防災組織・防災員の組織化と勉強会・訓練の実施
- (イ) 防災計画・防災マップの作成・標識の設置



(4) 地域で育てる子供たち

地域の宝である子供達を地域全体で支え育てていくために、子ども会の組織強化や子供の居場所作り等、必要な事業を行っていきます。

- (ア) 子ども会の一本化や子ども行事の開催
- (イ) 放課後の子どもの居場所づくり



3. にぎわいの地域づくり

(1) 訪れたい地域づくり

生野銀山や銀山湖、黒川温泉など豊富な観光資源に恵まれた地の利を生かし、観光資源（施設）との連携を深めながら、地域ぐるみでの情報発信やガイドなど観光サポート体制の構築を行います。

- (ア) 生野銀山とタイアップした地域づくり
- (イ) 地域資源のPRや観光イベント実施
- (ウ) 観光交流ガイドの養成



(2) 特産品の開発

遊休農地を有効に活用し、特産品の開発、生産を行うと共に、ふれあい喫茶を活用した販売活動など、経済効果を生み出すための取り組みを行います。

- (ア) 遊休農地の活用
- (イ) 地域交流による販売網の拡大
- (ウ) 特産品の開発と組織づくり
- (エ) 特産品加工・販売施設の検討



(3) 住みたい地域づくり

かつて奥銀谷地域に暮らしたことがある、または奥銀谷地域をひいきにしてくれる地域外の方々との交流を活性化させるとともに、空家の有効活用や地域雇用対策など、定住促進に向けた取り組みを行います。

- (ア) 奥銀谷応援隊、ファンづくり
- (イ) 空家の利活用
- (ウ) 地域外の団体や他地域との交流促進
- (エ) 地元企業等との連携・協力による雇用促進



(4) イベントによる賑わいづくり

奥銀谷地域で行われる、奥銀谷地域に根ざした集客イベントに積極的に支援、参画し、地域の賑わいを創出していきます。

- (ア) 新町河川公園祭りの支援
- (イ) 生野夏物語の開催
- (ウ) 生野銀山へいくろう祭りの支援
- (エ) その他、地域イベントへの支援、協力



4. 笑顔がふれあう地域づくり

(1) 身近な学びの場と機会づくり

かながせの郷などの拠点施設を地域の学びの場として提供、開放し、いつでも学べる環境づくりと交流の輪を創出する取り組みを行います。

- (ア) カルチャー教室の開催
- (イ) 文化祭の開催



(2) 地域住民の交流促進

ふれあい喫茶を地域の憩いの場として運営していくとともに、運動会や若者交流会など、さまざまな世代が多様な交流ができる環境づくりを行います。

- (ア) ふれあい喫茶の運営
- (イ) ふれあい運動会の開催
- (ウ) 若者交流会や若者イベントの開催
- (エ) 世代間の交流の実施



(3) 健康づくり

旧奥銀谷小学校校庭の利活用等を通じ、奥銀谷地域の住民が気軽に健康づくり・体力づくりに取り組めるよう、スポーツ大会や講習会などさまざまな機会を通じて提供していきます。

- (ア) ウォーキングやトレッキングの開催
- (イ) 健康教室や料理教室の開催
- (ウ) グランドゴルフ大会の開催



5. みんなが主役の地域づくり

(1) 協働の地域づくりの促進

だれもが奥銀谷地域のまちづくりに参画できる機会を整えていくとともに、地域自治協議会を通じた既存の地区同士の連携体制を密にし、お互いが助け合いやすい環境を構築していきます。

- (ア) イベント、行事などの協力実施
- (イ) 小規模集落の応援や地区間の支援体制づくり
- (ウ) 奥銀谷小学校跡地活用など地域ぐるみでの検討会の開催



(2) 地域活動への参加促進や広報活動

地域自治協議会の取り組みや考え方を地域全体で共有していくために広報誌・ホームページ等さまざまな媒体を通じた積極的な情報発信を行っていきます。

- (ア) 地区別勉強会の開催
- (イ) 広報「かながせ」等の発行を通じた活動の周知
- (ウ) ホームページによる情報発信
- (エ) ケーブルテレビの利活用





奥銀谷地域自治協議会

